

# 教職支援室便り (11月号)

令和3年11月12日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

## 教員採用選考試験結果

教員採用選考試験の結果が、ほとんどの自治体で発表されました。現役生6名(延べ6名)、既卒生7名(延べ8名・既卒生については把握分のみ)、計13名(延べ14名)が、下欄の自治体に合格しました。本年度は、例年より現役受験者が少ない状況でしたが、過去最高の合格率となりました。

**現役受験者の合格率：75%**

【小学校】・・・3名

長崎県1名(現役1名)、広島県1名(既卒1名)、北海道1名(既卒1名)

【小学校英語】・・・1名

宮崎県1名(現役1名)

【中学校英語】・・・6名

宮崎県2名(既卒2名)、大分県1名(現役1名)、神奈川県1名(現役1名)、埼玉県1名(現役1名)、東京都1名(既卒1名)

【高等学校英語】・・・4名

宮崎県3名(既卒3名)、神奈川県1名(現役1名)

### 平成22年4月以降の合格者等の状況

( )は延べ人数

採用年度	R4.4	R3.4	R2.4	H31.4	H30.4	H29.4	H28.4	H27.4	H26.4	H25.4	H24.4
合格者	13 (14)	15 (16)	12 (14)	11 (11)	17 (20)	16 (20)	16 (18)	13 (15)	12 (17)	15 (17)	11 (12)
現役生	6(6)	8(9)	9(11)	5(5)	8(11)	8(12)	7(9)	4(6)	6(9)	4(6)	5(5)
既卒生	7(8)	7(7)	3(3)	6(6)	9(9)	8(8)	9(9)	9(9)	6(8)	11(11)	6(7)
現役 受験者	8	15	15	12	19	14	13	11	14	11	12

採用年度	H23.4	H22.4
合格者	14 (14)	6 (6)
現役生	2(2)	2(2)
既卒生	12(12)	4(4)
現役 受験者	13	12

## 現役合格者の声

ここまで頑張ってきたのは、曾我先生をはじめ、多くの先生方がサポートしてくださったおかげです。また、同じ教員を目指す仲間がいてくれたことで、最後まで走り抜けることができました。本当に感謝しています。ありがとうございました。

4月から生徒と関わることができるというワクワク感や、自分に教師が務まるのかという不安な気持ちがありますが、残りの大学生活で今できることを、積み重ねて頑張りたいと思います!!!

教員採用試験の合格を、県のホームページで知ったときは、まず安心しました。それから、今まで応援してくださった人たちに、合格の報告をするたびに、やっと合格したという実感がわいてきて、喜ぶことができました。

採用試験では、去年の10月から、曾我先生の特別講座で試験対策をしていましたし、また、今年の夏休みは、毎日曾我先生に二次試験対策をしていただいたので自分がやれるだけのことをやり切ったことが自信となり、本番の自分を支えてくれました。

合格した今、本当にやり切ったよかったと思うことができるのは、支えてくださった皆さんのおかげです。自分一人では合格できませんでした。本当に感謝しています。ありがとうございました。

これまで曾我先生を始め、多くの方々に支えてもらったおかげで、無事合格内定を頂くことができました。1年前の自分は、試験対策など頭がなく、自分の目標も不明確なものでした。しかし、先生や皆と勉強を進めていくにつれて、教師としての魅力を再確認し、やはり私は教師になって子供たちと一緒に笑ったり、泣いたりして、多くの時間を共有したいという想いを、再認識することができました。きっと最初は、失敗だらけだと思いますが、人一倍の努力をして、一人前の小学校教諭になりたいと思います。不安も大きいですが、それよりも憧れの場所で働けることが、すごく楽しみです。

自分の頑張りだけでは、到底たどり着けなかった目標だと思います。支えてくださった方々、本当にありがとうございました。

特別講座が始まってから合格を頂くまでの、約1年間は不安もありましたが、毎日たくさんのお話を学ぶことができ、刺激的な毎日でした。私は試験が9月の後半まであり、合格できるかわからない不安が、ずっと続いていましたが、最後まで熱心に指導してくださった曾我先生や、一緒に頑張った友人のおかげで、最後まで頑張ることができました。試験期間に努力したことのおかげで、自信がつかえましたし、今は早く現場で働きたいという期待が大きいです。もちろん大変なことはたくさんあるかもしれませんが、自分が理想とする教師像に、一日でも早く近づけるように努力したいと思います。指導してくださった先生方、家族、友人のみんな、本当にありがとうございました。

# 教職特別講座スタート

本年度の教員採用選考試験の合格発表も終わり、次年度の試験に向けて、「特別講座」のオリエンテーションが10月26日に行われ、新たに「特別講座」がスタートしました。これから、約1年にわたり様々な演習を重ねていきます。



＜オリエンテーションの様子＞

「特別講座」では、教職教養、専門教養などの試験対策とともに、近年多くの自治体で、一次試験において個人（集団）面接、集団討論、小論文などの試験が行われていることから、早い段階で、それらの演習も取り入れながら進めます。学生の皆さんには、自己の目標を明確にもち、この「特別講座」を有意義なものにしてほしいと思いますが、特に大切な姿勢は「主体性」です。他律的な姿勢では成果は得られません。課題解決に向けて、自分から求めていく意欲がなければ、目標を達成できません。「特別講座」で何を学ぶのか、どのような姿勢で臨むのかなどについて、しっかりとした考えをもって、取り組んでほしいと思います。この「特別講座」が、教員採用選考試験対策のためだけでなく、教員としての資質・能力の向上に資するよう、自分自身を磨いていく、貴重な場にしてほしいと切に願います。私も、誠心誠意支援をしていきます。

次に、学生の皆さんの「特別講座」への抱負を、一部紹介します。

今回のオリエンテーションに参加して、特別講座では、教員採用試験に合格するだけでなく、教師になる上で必要な資質・能力を学ぶことがわかりました。

私は、小学校の先生になりたいので、自分でできる限り努力して、知識を得るだけでなく、多様な力を身に付けたいと思います。

特別講座では、教員採用試験に合格するためだけをゴールにせず、将来自分が教員として、子どもたちの前に立ったときに生かせる力（子どもたちのために何かできるようになるための資質・能力）を身に付けたいと思います。

また、自分には足りない部分があるので、自己理解を図ることも目指していきたいです。全力で頑張ります。

今日のオリエンテーションを受けてみて、特別講座へ参加したいという気持ちが強くなりました。現在、教職課程の授業を受けていますが、先生や友達との意見交換の中で、自分はまだまだ将来教員になるための、資質・能力が足りないと感じています。多面的・多角的な視点を身に付けて、道徳心を養い、ステキな教員になれることを目指して、頑張りたいと思います。

今日改めて、自分の受験したい自治体について、「もっと詳しく調べないと！」とあせりを感じました。正直、自分がこんなにたくさんの教職教養を覚えられるのか不安ですが、特別講座の皆勤賞を目指して、頑張りたいと思います。そして、トイックや英検についても勉強に励みたいと思います。

よろしくをお願いします。

# 道徳の教科化に思う！（シリーズ54）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は、道徳科の授業における、「道徳的価値を自分との関わりの中で考えること」について掲載します。

- 1 「道徳的価値を自分との関わりの中で考えること」とは  
「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」より、関係内容を抜粋

- 登場人物の立場に立って考えること。
- 自分自身の問題として受け止められること。
- 切実感をもって学習すること。
- 道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりすること。
- 課題を自分との関係で捉えること。
- これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、更に考えを深めること。

要約すると

登場人物の立場に立って、自分自身の問題として受け止め、これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、道徳的価値について更に考えを深めること。

## 2 解説

要約すると上記のようにまとめられますが、「自分との関わりの中で考えること」のイメージはもつことができると思います。しかし、ここで大切なことは、児童生徒が真に自分自身の問題と受け止めたり、切実感をもって考えたり感じたりするには、どのような指導が必要であるかということです。まず、考えられるのは、児童生徒が、自分との関わりの中で考えることができる発問を工夫することです。

### 【発問例】

- 「人はみんな、そのような考えをもつのでしょうか。」
- 「そんなことでよいのでしょうか。」
- 「人として、あまりにさびしいことではないですか。」
- 「主人公を許してやることはできませんか。」
- 「主人公の考えについて、あなたはどう思いますか。」
- 「主人公の考えは、あまりにも勝手ではないですか。」
- 「主人公をかばうのはどんな気持ちからですか。」
- 「人はみんな、そんなところがあるのではないですか。」

これらの発問例については、児童生徒の実態、内容項目、授業の「ねらい」、教材内容（人間の弱さが描かれている教材内容）等によって、他にもいくつもの発問が考えられると思います。

次に、道徳授業に真剣に向き合う児童生徒の姿勢が、育てられているかということです。いかに多様な発問を工夫しても、その姿勢が不十分であれば、成果をあげることはできません。つまり、安定した教室環境をつくり上げる、学級経営力が重要であるということです。そこには、学級担任として児童生徒の心に入り込む力、児童生徒に思いを込めて心をゆさぶる発問を投げかける力など、児童生徒と一体となる教師力が求められます。原則、学級担任が道徳授業を行う理由もそこにあります。

【学習指導要領 特別の教科 道徳】「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」2（1）

<小学校>

校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。

<中学校>

学級担任の教師が行うことを原則とするが、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。